

線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ第 8 回会合 議事概要

1. 開催日時

令和 6 年 6 月 13 日（木）13 時 15 分～15 時 15 分

2. 開催場所

気象庁 7 階会議室 1（ウェブ会議併用）

3. 出席者

別紙のとおり

4. 議題及び検討結果の概要

下記の議題について検討を行った。

○ 線状降水帯の予測精度向上に向けた取組の進捗状況について（報告）

- 線状降水帯予測精度向上に向けた取組の成果として、降水量等の予測精度が長期的に改善していることを示せると良い。また降水域の位置ずれも考慮できると望ましい。
- 令和 7 年度末の局地モデル（LFM）の高解像度（1km）化に向けて、計算安定性の確認や数値予報モデルの物理過程の検討等が必要となるところ、技術開発の計画を適宜共有しつつ精度検証を進めてもらいたい。高解像度モデルにおける対流の表現等に関する評価においては、機構解明研究とも連携して検証を進めることが有効である。

○ 線状降水帯の予測精度向上に向けた学官連携の方策について

- 学官連携を推進するにあたり、機構解明に関する研究会は知見の集約及びコミュニケーションの深化に非常に重要な位置づけとなっている。気象庁の問題意識や開発課題を共有した上で、引き続き学官で連携して課題解決を図ることが望ましい。
- AI の活用によって数値予報モデルやデータ同化開発の重要性は大きくは変わらないだろうが、モデルの苦手な部分を AI でフォローするといった利用可能性はあると考えられる。将来的に機械学習や AI の利活用を検討することを見据え、官民や国内外を問わず情報収集すると良い。

- 線状降水帯の発生形態に係る分類表の作成は、メカニズムの体系的な理解に向けて非常に重要な取組である。積極的な議論・意見交換を通じ、様々な視点を踏まえ継続的に更新を行ってほしい。今後は、予測精度向上への貢献といった観点も含め整理を進めるとともに、線状降水帯ではない大雨との比較を通じて特徴をまとめるといった方向性もあるだろう。

以上

## 線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ第8回会合 出席者

## 線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ 委員（有識者）

- 佐藤 正樹 東京大学大気海洋研究所海洋地球システム研究系 教授
- 伊藤 耕介 京都大学防災研究所気象・水象災害研究部門 准教授
- 伊藤 純至 東北大学理学研究科地球物理学専攻 准教授
- 清水 慎吾 防災科学技術研究所 主任研究員
- 出世 ゆかり 防災科学技術研究所 主任研究員
- 竹見 哲也 京都大学防災研究所気象・水象災害研究部門 教授
- 坪木 和久 名古屋大学宇宙地球環境研究所 教授
- 芳村 圭 東京大学生産技術研究所 教授

(○：主査、敬称略、主査以外は五十音順)

## 気象庁出席者

- 石田 純一 総務部参事官（技術）
- 佐藤 芳昭 情報基盤部数値予報課長
- 別所 康太郎 情報基盤部気象衛星課長
- 杉本 悟史 大気海洋部予報課長
- 吉松 和義 大気海洋部気候情報課長
- 藤田 匡 気象研究所研究連携戦略官